

近畿大学・医学部-推薦

試験日 2022年11月20日 時間 60分 **数学I** **数学II** **数学A** **数学B** (数列, ベクトル)

1 (1) 1から5までの自然数が1つずつ書かれた5枚のカードがある. この中から3枚のカードを選んで、3桁の数を作る.

- (i) これら3桁の数のうち、偶数は全部で 個ある.
- (ii) これら3桁の数のうち、3の倍数は全部で 個ある.
- (iii) これら3桁の数のうち、6の倍数は全部で 個ある.

(2) 方程式 $x^2 - x + 1 = 0$ の異なる2つの解を α, β とする. このとき,

$$\frac{\beta}{\alpha} + \frac{\alpha}{\beta} = \text{□}, \alpha^9 + \beta^9 = \text{□}$$

となる. また、任意の自然数 m に対して等式 $\alpha^{m+n} + \beta^{m+n} = \alpha^m + \beta^m$ が成り立つ最小の自然数 n は $n = \text{□}$ である.

(3) $\angle A = 60^\circ$ の三角形 ABC の内部に点 P をとり、P から直線 AB に下ろした垂線の交点を D とし、P から直線 AC に下ろした垂線の交点を E とする. $DE = 9$ のとき、 $AP = \text{□} \sqrt{\text{□}}$ である. このとき、さらに、直線 AB 上に点 F をとり、直線 AC 上に点 G をとるとき、 $PF + FG + GP$ の最小値は である.

2 座標平面上の原点 O を中心とする半径 2 の円周上に3点 A, B, C がある. $\vec{OA} = \vec{a}, \vec{OB} = \vec{b}, \vec{OC} = \vec{c}$ として、 $4\vec{a} + 5\vec{b} + 3\vec{c} = \vec{0}$ を満たすとする.

(1) $\vec{a} \cdot \vec{b} = \frac{\text{□}}{\text{□}}, \vec{b} \cdot \vec{c} = \frac{\text{□}}{\text{□}}, \vec{c} \cdot \vec{a} = \text{□}$ である.

(2) $|\vec{AB}|^2 = \frac{\text{□}}{\text{□}}, |\vec{AC}|^2 = \text{□}$ である.

(3) 三角形 ABC の面積は $\frac{\text{□}}{\text{□}}$ である.

(4) 点 A の座標が (2, 0) であり、点 C の y 座標が正であるとき、点 B の座標は $\left(\frac{\text{□}}{\text{□}}, \frac{\text{□}}{\text{□}} \right)$, 点 C の座標は $(\text{□}, \text{□})$ である.

3 関数

$$y = 2\cos^5 x - 3\cos^3 x + \cos x - 2\sin^5 x + 3\sin^3 x - \sin x$$

を考える. ただし、 $0 \leq x < 2\pi$ とする. $t = \cos x - \sin x$ とおくと、 t のとりうる値の範囲は

$$-\sqrt{\text{□}} \leq t \leq \sqrt{\text{□}}$$

である. このとき、 $\cos x \sin x$ と $\cos^3 x - \sin^3 x$ はそれぞれ t を用いて

$$\cos x \sin x = \frac{-t^2 + \text{□}}{\text{□}},$$

$$\cos^3 x - \sin^3 x = \frac{-t^3 + \text{□}t}{\text{□}}$$

と表され、関数 y は t を用いて

$$y = \frac{-t^5 + \text{□}t^3 - \text{□}t}{\text{□}} \dots\dots\dots \text{①}$$

と表される.

2 近畿大学・医学部-推薦

$y = 0$ となる x の値は全部で \square 個あり, そのうち最も大きい値は $\frac{\square}{\square}\pi$ である.

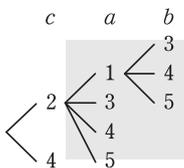
式①で表される t の関数 y を $f(t)$ とする. $y = f(t)$ が極値をとる t は 4 つあり, 小さい方から順に a, b, c, d とする. このとき, $ac = \frac{\square\sqrt{\square}}{\square}$, $f(b)f(d) = \frac{\square\sqrt{\square}}{\square}$ である.

1 (1) **数学A** 【順列】 **標準**

▶解答◀ 作る3桁の数を abc と表す.

(i) $c = 2$ または 4 のときである. このとき, ab は残り4数から2つをとる順列で $4 \cdot 3$ 通りある. したがって, できる偶数の個数は

$$2 \cdot 4 \cdot 3 = 24$$



(ii) $100a + 10b + c = 9(11a + b) + a + b + c$ が3の倍数となるのは $a + b + c$ が3の倍数になるときである. 1, 2, 3, 4, 5 を3で割った剰余で分類し

$$R_1 = \{1, 4\}, R_2 = \{2, 5\}, R_0 = \{3\}$$

とする. $a + b + c$ が3の倍数になるのは, R_1, R_2, R_0 から1つずつとるときである. 1, 4のどちらをとるか, 2, 5のどちらをとるかまで $2 \cdot 2 = 4$ 通りある.



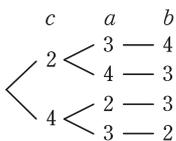
たとえばこれらが1, 2のとき, abc は1, 2, 3の順列で3! 通りある.

$$3 \text{ の倍数の個数は } 4 \cdot 3! = 24$$

(iii) $\{a, b, c\} = \{1, 2, 3\}$ のとき $c = 2$ で, ab は2通りある.

$\{a, b, c\} = \{1, 5, 3\}$ のときは不適.

$\{a, b, c\} = \{4, 2, 3\}$ のときは $c = 2$ または 4 で, たとえば $c = 2$ のとき ab は2通りある. このときは $2 \cdot 2 = 4$ 通りある.



$\{a, b, c\} = \{4, 5, 3\}$ のときも2通りある.

全部で $2 + 4 + 2 = 8$ 個ある.

(2) **数学II** 【解と係数の関係】 **標準**

▶解答◀ $x^2 - x + 1 = 0$ の2解が α, β であるから, 解と係数の関係により

$$\alpha + \beta = 1, \alpha\beta = 1$$

このとき

$$\alpha^2 + \beta^2 = (\alpha + \beta)^2 - 2\alpha\beta = 1 - 2 = -1$$

また, $x^2 - x + 1 = 0$ のとき

$$x^3 + 1 = (x + 1)(x^2 - x + 1) = 0$$

であるから, $x = \alpha, \beta$ は $x^3 + 1 = 0$ を満たす. よって

$$\alpha^3 = \beta^3 = -1$$

したがって

$$\frac{\beta}{\alpha} + \frac{\alpha}{\beta} = \frac{\alpha^2 + \beta^2}{\alpha\beta} = \frac{-1}{1} = -1$$

$$\alpha^9 + \beta^9 = (\alpha^3)^3 + (\beta^3)^3 = -1 - 1 = -2$$

ここで $\alpha^3 = -1$ より, α^n ($n = 1, 2, 3, \dots$) は周期6で

$$\alpha, \alpha^2, -1, -\alpha, -\alpha^2, 1$$

を繰り返す. β^n についても同様であるから,

$\alpha^n + \beta^n$ ($n = 1, 2, 3, \dots$) も周期6で

$$\alpha + \beta = 1, \alpha^2 + \beta^2 = -1, -1 - 1 = -2,$$

$$-\alpha - \beta = -1, -\alpha^2 - \beta^2 = 1, 1 + 1 = 2$$

を繰り返す. よって, 任意の自然数 m に対して

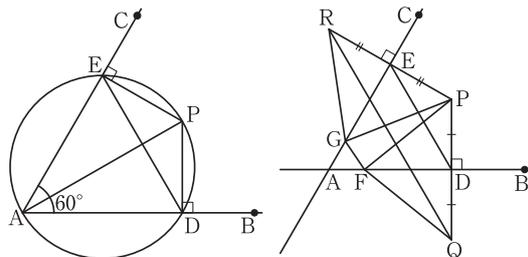
$$\alpha^{m+n} + \beta^{m+n} = \alpha^m + \beta^m$$

が成り立つ最小の自然数 n は $n = 6$ である.

(3) **数学A** 【図形の雑題】 **標準**

▶解答◀ $\angle ADP = \angle AEP = 90^\circ$ であるから, 四角形 $ADPE$ は, AP を直径とする円 O に内接する. 円 O は, $\triangle ADE$ の外接円であるから, 正弦定理より

$$AP = \frac{DE}{\sin A} = \frac{9}{\sin 60^\circ} = \frac{9 \cdot 2}{\sqrt{3}} = 6\sqrt{3}$$

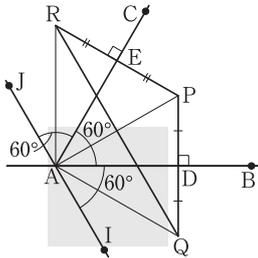


直線 AB, AC に関して, P と対称な点をそれぞれ Q, R とする. このとき, PF = QF, GP = GR であるから

$$\begin{aligned} PF + FG + GP &= QF + FG + GR \\ &\geq QR = 2DE = 18 \end{aligned}$$

等号は Q, F, G, R の順で一直線上にあるときに成り立つ. なお, 中点連結定理により QR と DE は平行で QR = 2DE である.

【注意】 図のような直線 IJ をとる. Q は半直線 AB, AI ではさまれた領域にあり, R は半直線 AC, AJ ではさまれた領域にあるから, 線分 QR は線分 AB, AC と交わる.



2 **【数学B】**【ベクトルと図形(平面)】 **【標準】**
▶解答◀ (1) $4\vec{a} + 5\vec{b} + 3\vec{c} = \vec{0}$ より

$$\begin{aligned} 5\vec{b} &= -3\vec{c} - 4\vec{a} \\ |5\vec{b}|^2 &= |-3\vec{c} - 4\vec{a}|^2 \\ 25|\vec{b}|^2 &= 9|\vec{c}|^2 + 24\vec{c} \cdot \vec{a} + 16|\vec{a}|^2 \\ |\vec{a}| = |\vec{b}| = |\vec{c}| = 2 &\text{であるから} \\ \vec{c} \cdot \vec{a} &= \frac{25|\vec{b}|^2 - 9|\vec{c}|^2 - 16|\vec{a}|^2}{24} \\ &= \frac{(25 - 9 - 16) \cdot 4}{24} = 0 \end{aligned}$$

同様に

$$\begin{aligned} \vec{a} \cdot \vec{b} &= \frac{9 - 16 - 25}{2 \cdot 4 \cdot 5} \cdot 4 = -\frac{16}{5} \\ \vec{b} \cdot \vec{c} &= \frac{16 - 25 - 9}{2 \cdot 5 \cdot 3} \cdot 4 = -\frac{12}{5} \end{aligned}$$

(2) $|\vec{AB}|^2 = |\vec{b} - \vec{a}|^2 = |\vec{b}|^2 - 2\vec{a} \cdot \vec{b} + |\vec{a}|^2$
 $= 4 + \frac{32}{5} + 4 = \frac{72}{5}$

$\vec{c} \cdot \vec{a} = 0$ より $\angle AOC = 90^\circ$ であるから

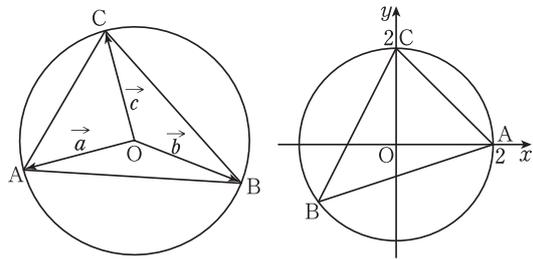
$$|\vec{AC}|^2 = AC^2 = OA^2 + OC^2 = 4 + 4 = 8$$

(3) $|\vec{BC}|^2 = |\vec{c} - \vec{b}|^2 = |\vec{c}|^2 - 2\vec{b} \cdot \vec{c} + |\vec{b}|^2$
 $= 4 + \frac{24}{5} + 4 = \frac{64}{5}$

である. また, $\angle AOC = 90^\circ$ であるから, 円周角の定理より $\angle ABC = 45^\circ$. よって, $\triangle ABC$ の面積 S は

$$S = \frac{1}{2} |\vec{AB}| |\vec{BC}| \sin 45^\circ$$

$$= \frac{1}{2} \sqrt{\frac{72}{5}} \sqrt{\frac{64}{5}} \cdot \frac{1}{\sqrt{2}} = \frac{24}{5}$$



(4) $A(2, 0)$, $\angle AOC = 90^\circ$ で, C の y 座標が正であるから, C の座標は $(0, 2)$ である.

このとき, $\vec{a} = (2, 0)$, $\vec{c} = (0, 2)$ であるから

$$\begin{aligned} \vec{b} &= -\frac{3\vec{c} + 4\vec{a}}{5} = -\frac{3(0, 2) + 4(2, 0)}{5} \\ &= \left(-\frac{8}{5}, -\frac{6}{5}\right) \end{aligned}$$

よって, B の座標は $\left(-\frac{8}{5}, -\frac{6}{5}\right)$ である.

3 **【数学II】**【関数の増減・極値】 **【標準】**
▶解答◀ $t = \cos x - \sin x$

$$\begin{aligned} &= \sqrt{2} \left(\cos x \cos \frac{\pi}{4} - \sin x \sin \frac{\pi}{4} \right) \\ &= \sqrt{2} \cos \left(x + \frac{\pi}{4} \right) \end{aligned}$$

$\frac{\pi}{4} \leq x + \frac{\pi}{4} < 2\pi + \frac{\pi}{4}$ であるから, t の値域は

$$-\sqrt{2} \leq t \leq \sqrt{2}$$

このとき, $t^2 = 1 - 2\cos x \sin x$ であるから

$$\begin{aligned} \cos x \sin x &= \frac{-t^2 + 1}{2} \\ \cos^3 x - \sin^3 x &= (\cos x - \sin x)(1 + \cos x \sin x) \\ &= t \left(1 + \frac{-t^2 + 1}{2} \right) = \frac{-t^3 + 3t}{2} \end{aligned}$$

また

$$\begin{aligned} &(\cos^2 x + \sin^2 x)(\cos^3 x - \sin^3 x) \\ &= \cos^5 x - \sin^5 x + \cos^2 x \sin^2 x (\cos x - \sin x) \end{aligned}$$

であるから

$$\begin{aligned} 1 \cdot \frac{-t^3 + 3t}{2} &= \cos^5 x - \sin^5 x + \left(\frac{-t^2 + 1}{2} \right)^2 t \\ \cos^5 x - \sin^5 x &= \frac{-t^3 + 3t}{2} - \frac{(-t^2 + 1)^2 t}{4} \\ &= \frac{-t^5 + 5t}{4} \end{aligned}$$

よって

$$\begin{aligned} y &= 2(\cos^5 x - \sin^5 x) - 3(\cos^3 x - \sin^3 x) \\ &\quad + (\cos x - \sin x) \\ &= 2 \cdot \frac{-t^5 + 5t}{4} - 3 \cdot \frac{-t^3 + 3t}{2} + t \end{aligned}$$

4 近畿大学・医学部-推薦

$$= \frac{-t^5 + 3t^3 - 2t}{2}$$

$y = 0$ となるのは $-t^5 + 3t^3 - 2t = 0$ のときで

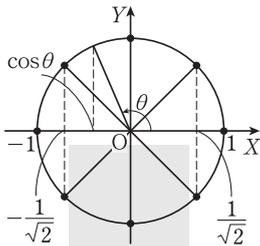
$$t(t^2 - 1)(t^2 - 2) = 0$$

$-\sqrt{2} \leq t \leq \sqrt{2}$ に注意して

$$t = 0, \pm 1, \pm\sqrt{2}$$

すなわち, $\cos\left(x + \frac{\pi}{4}\right) = 0, \pm\frac{1}{\sqrt{2}}, \pm 1$ である.

$x + \frac{\pi}{4} = \theta$ とおくと $\frac{\pi}{4} \leq \theta < 2\pi + \frac{\pi}{4}$ であるから, これを満たす x の値は, 次の図の●に対する 8 個であり, この中で最大のものは $\theta = 2\pi$ のときの $\frac{7}{4}\pi$ である.



$$f(t) = \frac{-t^5 + 3t^3 - 2t}{2}$$

$$f'(t) = \frac{-5t^4 + 9t^2 - 2}{2}$$

$t^2 = s$ とおく. $0 \leq s \leq 2$

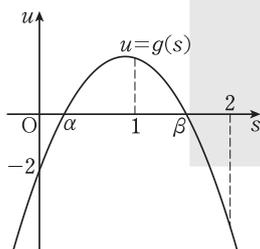
$g(s) = -5s^2 + 9s - 2$ とおく.

$$g(0) = -2 < 0, g(1) = 2 > 0,$$

$$g(2) = -20 + 18 - 2 = -4 < 0$$

$g(s) = 0$ は $0 < s < 2$ に 2 つの解をもつ. その解を α, β ($0 < \alpha < \beta < 2$) とする. 解と係数の関係より

$$\alpha + \beta = \frac{9}{5}, \alpha\beta = \frac{2}{5}$$



t	$-\sqrt{2}$	\dots	a	\dots	b	\dots	c	\dots	d	\dots	$\sqrt{2}$
$f'(t)$			-	0	+	0	-	0	+	0	-
$f(t)$			\searrow		\nearrow		\searrow		\nearrow		\searrow

$$a = -\sqrt{\beta}, b = -\sqrt{\alpha}, c = \sqrt{\alpha}, d = \sqrt{\beta}$$

$$ac = -\sqrt{\alpha\beta} = -\sqrt{\frac{2}{5}} = -\frac{\sqrt{10}}{5}$$

$$f(t) = -\frac{t}{2}(t^4 - 3t^2 + 2) = -\frac{t}{2}(t^2 - 1)(t^2 - 2)$$

であるから

$$f(b)f(d) = f(-\sqrt{\alpha})f(\sqrt{\beta})$$

$$= \frac{\sqrt{\alpha}}{2}(\alpha - 1)(\alpha - 2)$$

$$\times \left(-\frac{\sqrt{\beta}}{2}\right)(\beta - 1)(\beta - 2)$$

$$g(s) = -5(\alpha - s)(\beta - s)$$

$$f(b)f(d) = \frac{\sqrt{\alpha\beta}}{-4} \cdot \frac{g(1)}{-5} \cdot \frac{g(2)}{-5}$$

$$= \frac{\sqrt{\frac{2}{5}}}{-100} \cdot 2 \cdot (-4) = \frac{2\sqrt{10}}{125}$$

◆別解◆ α は $5\alpha^2 - 9\alpha + 2 = 0$ を満たすから

$$\alpha^2 = \frac{9\alpha - 2}{5}$$

$$f(b) = \frac{-b^5 + 3b^3 - 2b}{2} = \frac{\sqrt{\alpha}}{2}(a^2 - 3a + 2)$$

$$= \frac{\sqrt{\alpha}}{2} \left(\frac{9\alpha - 2}{5} - 3\alpha + 2 \right) = -\frac{\sqrt{\alpha}}{5}(3\alpha - 4)$$

β, d についても同様に考えて

$$f(d) = \frac{\sqrt{\beta}}{5}(3\beta - 4)$$

したがって

$$f(b)f(d) = -\frac{\sqrt{\alpha\beta}}{25}(3\alpha - 4)(3\beta - 4)$$

$$= -\frac{\sqrt{\alpha\beta}}{25} \{9\alpha\beta - 12(\alpha + \beta) + 16\}$$

$$= -\frac{1}{25} \sqrt{\frac{2}{5}} \left(\frac{18}{5} - \frac{108}{5} + 16 \right) = \frac{2\sqrt{10}}{125}$$

注意

因数分解を利用した代入は藤田医大・未来 1(5)

別解を見よ. また

$$(\alpha - 1)(\beta - 1) = \alpha\beta - (\alpha + \beta) + 1$$

$$= \frac{2}{5} - \frac{9}{5} + 1 = -\frac{2}{5}$$

のように計算してもよい.

◆要の分析◆ 本年度から他学部と共通の穴埋め形式になったが, 60 分という試験時間を考えるとそれほど簡単ではない. いずれも典型的な問題だが, 3 は作業量が多く難しい.

(井手, 楊, 染矢, 安田亨)